

pedes were not expected to be found in such an area as Micronesia, Bonin Is., etc.

ブラジル産サソリの一品

高 島 春 雄

財団法人山階鳥類研究所

Notes on the Brazilian Scorpion *Bothriurus bonariensis*

Haruo TAKASHIMA

私はブラジルのサソリは絵や写真で見るとのみで実物を検する機会に全く恵まれなかつた。然るに 1952 年夏島根県簸川郡稗原村におられる甲虫研究家山根孝夫氏が御所有のブラジル産サソリ標本 7 頭を私に寄送せられた。得難い機会を与えられた同氏に深い謝意を表明するものである。これらは在ブラジルの氏の知友行方氏 A. B. K. Nanekata が採集したものであるが困つたことに乾燥標本になつており、まだ 1 度も扱つたことのない種類を乾燥品で標徴を把握するのは骨の折れることであつた。

サソリの胸板 sternum or thoracic sternum の形状はサソリ類分類に大きい見当をつけるのに便利な標徴とされる。多くのサソリでは胸板は 1 枚で 5 角形又は上端のもけた等辺 3 角形などで、従来私の調査し得たサソリは総べてこの範疇に入るものであつた。ところが主として南米に産するボトリウルス科 Bothriuridae Simon (1880) にあつては胸板は左右 2 枚の細い横斜の板に岐れ幅は長さの数倍という異形のものであり又時によるとその胸板の存在をほとんど認め難いこともあるといわれ、いつか 1 度はこの科のものの標本に接したいとはサソリの調査を始めるようになってからの念願の一つであつた。他の科のサソリでは胸板は長さが幅を超えることがあり、幅が長さを超えても長さの 2 倍位のものである。今回山根氏が提供されたサソリはどれも Bothriuridae のものであつたのは大いに愉快である。この科のものは Cer-

cophoni Peters (1861) という属が主として南濠洲，タスマニアに産し 5 種知られるし (3 種と看做す説もある)，又本性のはつきりしない属であるが *Timogenes* Simon (1861) というスマトラ産のもの (1 種きり) がやはりこの科に属するらしいが他は総べて南米産である。科の分割では古く Kraepelin (1899) は 7 属を置き別格として上記 *Timogenes* を配した。Werner (1934) は *Iophorus* を加えて 8 属とし Kästner (1940) は更に *Iophoroxenus* を加えて 9 属とし種数は 45 以上と記した。岸田久吉氏 (1939) はこの類のためにサソリ全体を分つて 2 亜目としその一つ裂胸亜目 *Schizostethi* というのを占めさせその中に 3 上科 5 科を配する分類体系を樹てられたようであるが其の後詳報なくその内容を窺知し得ない。この科は亜科は置かれず直ぐ次の 9 属に分割される。

- Brachistosternus* Pocock (1893) チリー，アルゼンチン，パラグワイ，ペルー
Bothriurus Peters (1861) チリー，アルゼンチン，ウルグワイ，パラグワイ，ボ
 リヴィア，ペルー，ブラジル
Centromachetes Lönnberg (1897) チリー
Cercophonius Peters (1861) 南濠洲，タスマニア島
Iophoroxenus Mello-Leitão (1932) アルゼンチン
Iophorus Penther (1913) アルゼンチン
Phonicercus Pocock (1893) チリー
Thestylus E. Simon (1880) ブラジル
Urophonius Pocock (1893) チリー，アルゼンチン，ウルグワイ，ブラジル北部

諸今回の標本は *Bothriurus bonariensis* (C. L. Koch) と同定された。乏しい文献と調査に不便な乾固品とでどうにか見当がついたのは幸運であつたといえる。アルゼンチン，ウルグワイ，パラグワイ，ボリヴィア，ブラジル南部等に拡がりブラジルでは普通のサソリの一つであろうが邦人学者により従来 1 度も扱われなかつたサソリであるから不完全ながら記載を作り次に掲げる。習性等に関しては私は何も知らない。*Bothriurus* には Werner (1934) に拠ると 11 種位あり上記のように総べて新熱帯区の産である。Kraepelin (1899, 1910), Mello Campos (1924) 等に拠る時はブラジル産 *Bothriurus* には本種の他に *B. signatus* Pocock, 1893 があるがそれと相違することは

明かである。

Bothriurus bonariensis

- 1842 *Broteas bonariensis* C. L. Koch, Arach., vol. x, p. 12
 1893 *Bothriurus bonariensis*, Pocock, Ann. Nat. Hist., ser. 6, vol. xii, p. 94
 1899 *Bothriurus vittatus*, Kraepelin (nec Guérin, 1830), Das Tierr., Lfg. 8, p. 196
 1910 *Bothriurus bonariensis*, Kraepelin, Mt. Mus. Hamb., Nr. 28, p. 91
 1924 *Bothriurus bonariensis*, Mello Campos, Mem. Inst. Oswaldo Cruz, vol. xvii, fas. 11, p. 255

7 個体の内 No.2 (♂) につき大体を記載する。

色彩 この個体は他の 6 頭に比べ著しく黒味が強い。乾燥標本の為却て生時の色に近いかも知れない。背面は概して黒色、觸鬚や後腹(毒囊共)は滑沢で黒光りがしている。背甲もほぼ同色ながら光沢に乏しい。前腹は濃黒褐色で光沢なく歩脚はそれより明るい黒褐色。腹面(下面)では觸鬚と後腹は色沢背面に同じく前腹と歩脚は飴色(濃褐色)。但し No. 2 以外の ♂ は背面は総べて黒味少く觸鬚や後腹は帯黒褐色、背甲と前腹は帯褐黒色、歩脚は飴色、腹面も背面と大同小異。

大腿 第 1 節は背甲下に隠れる。第 2 節は円筒状ながらやや扁平、内縁上方に刷毛状に毛を密生、内端部は鉤状に突出するが基部に近く直ぐ 2 又し短い内方のものは第 3 節と噛み合う歯となり外方のものは長鉤となる。第 3 節は可動性で著しく彎曲した鉤となり内方に 2 歯を具え、第 2 節の指状部と相対し鉗を成す。

觸鬚 第 1 節は大腿に隠されて見えぬがその内縁に刺毛を刷毛状に生ぜしめる。第 2 節は最も短く起伏多くてやや金米糖に似、数本の刺毛を生ずるのみ。第 3 節は顆粒や点刻に富み縁辺部の顆粒はやや大きい。生ずる刺毛の数は少い。第 4 節は前節とほぼ同大、形もやや似た角壺状、前節より顆粒や点刻少く細毛を粗生せしめる。第 5 節の下掌部は著しく膨れて目を惹く。長さは幅を超え全面点刻を密布し光沢に富む。不分明な縦紋が 2 条程走り少数の細毛をはやす。下面は圧定されている。指部の長さは下掌に及ばない。下掌下面、可動指(第 6 節)の基部のあたりに 1 棘を起生せしめるがこれは二次

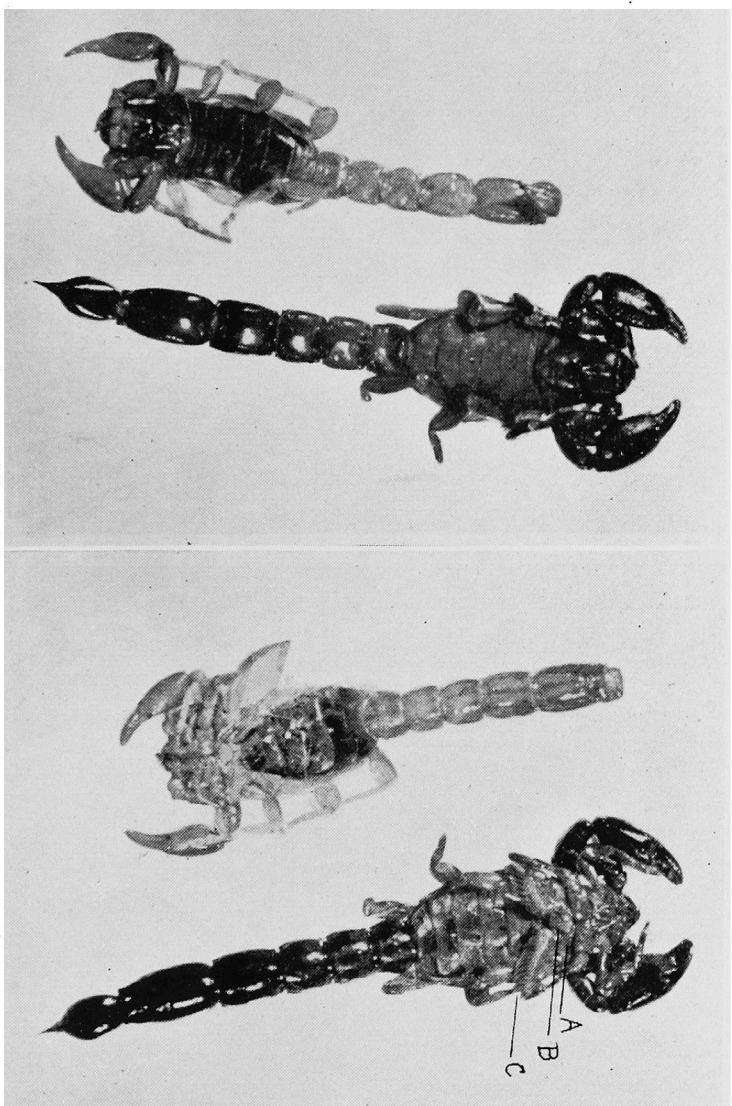
性徴として最も注目すべき形質である。

背甲 長さは幅に等しい前狭後広の 4 辺形，額縁はほぼ水平であるが正中やや窪む。全体に顆粒を密布し光沢に乏しい。正中線上ほぼ中央に中眼丘がありそこに左右 1 対の黒色光輝ある単眼が浅い溝に隔てられて位置する。中眼丘以下は下縁まで浅い溝となる。その溝の下端に接し斜上方に向う著しい溝がある。外縁には上縁に近く側眼丘があり中眼よりも小さい単眼を 1 箇だけ具える。

前腹 背板に中畝無く正中線は却て極めて僅かに窪む程度。光沢なく小顆粒を密布。顆粒は後縁に於て著しい。腹面では胸板は左右 1 対の棒状という特異のもの。その下方性扉は左右両片で倒洋梨状。櫛状器は外縁部は 3 甲片に岐れるだけであるが中間部は小岐して 9 箇位の真珠を 1 列に置いたように並ぶ。内縁部は微小の紡錘小体を隔てて 15~16 枚の齒を列生せしめる。

後腹 針で突いたような点刻は上部の節に於て著しい。上縁端に近い所から下方は顆粒列の成す左右 1 対の縦畝があるが下方節のもの程不分明で第 5 節ではほとんど認められぬ。第 6 節毒囊は平滑，光沢に富み少数の細毛を粗生せしめる。腹面観は各節顆粒列，畝などないが第 5 節にのみ後縁端部から夫々弓形の顆粒の列が発してアーチ状を成して会合せんとしその内方は深くえぐられて末端域を成すのが著しい位である。毒囊下方は正中に沿い 2 条の浅い溝が毒針に通ずる。毒針は緩く下方に彎曲し袋刺を伴わない。

歩脚 第 2 節転節は長方形で幅は長さの半分に僅かに及ばない。刺毛を少数生ずる。腿節は長く 4~5 本の刺毛を生ずるのみ。膝節は下方膨出し紡錘形に近くなっているのが歩脚を特徴づける。刺毛は数本のみ。脛節は急に細く端部から上方に 1 長棘毛を生ずるほか数本の刺毛を持つ。前附節は前節とほぼ同形同大，長短の刺毛を粗生するほか 6 本の棘を下縁及び端部から起生させる。附節は端部幅広き長方形で下縁中央近くと端部とに 2 対の棘を生じ尙下縁には 9 本程の剛い刺毛をやや櫛齒状に列生，端部上縁近く 2 本の長い刺毛を生ずる。附節の先には 1 対の上爪と 1 箇の下爪あること他のサソリと同様である。別個体 (No. 1) で第 4 歩脚長を測定したのでは 12 mm (腿節 4, 膝節 3.5, 脛節 2, 前附節 1.5, 附節 1 mm) である。



[左] 左は No. 7 (♀), 右は No. 2 (♂), どちらも背面, No. 7 では毒囊は前上方に懸っている。
 [右] 左は No. 7, 右は No. 2, どちらも腹面, A は胸板, B は性孔, C は楯状器 井上正亮氏撮影(原図)

測定 乾燥標本である為ここに掲げる数値には不安のものが多い (単位は何れも mm)。

標本 番号	採集年月日	性	背甲長	前腹 長	後腹長 (尾長)	体長	尾率	櫛状器歯数	
1	1950. 8. 30	♂	4	10	18.5	32.5	1.3	右 15?	左 17
2	1950. 8. 25	♂	4	8	18	30	1.5	右 14?	左 16
3	1950. 8. 30	♂	4	8	18	30	1.5	右 13	左 15
4	1950. 8. 31	♂	4	8	15	27	1.3	右 14	左 14?
5	1950. 8. 25	♂	4	8	18	30	1.5	右 16	左 13?
6	1950. 8. 30	♂	4	8	17	29	1.4	右 15	左 16
7	1950. 8. 25	♀	4	9	16?	29?	1.2?	右 11	左 11

二次性徴 ♀ は 1) 觸鬚可動指下面基部に 1 棘を具えぬこと 2) 櫛状器やや小さく歯数少いこと 3) 背甲は平滑で光沢があり前腹もほとんど平滑であること等により ♂ との区別はた易い。♀ の標本を 1 箇しか持たぬがそれでは性屏は菱形に近い。

本種には Kraepelin (1910) は *maculatus* Kraepelin, *asper* Pocock の 2 変種を認めている。*asper* は元来独立の種として記載されたものであるが原種とは色彩斑紋を異にするだけで区別するに当たらないように思う。var. *asper* に当る個体もブラジルに産するのである。

Résumé

I have received seven dried specimens of scorpion through the courtesy of Mr. T. Yamané which were collected in Brazil by Mr. A. B. K. Namekata. They were the scorpions never seen by the writer and he identified them as one female and six males of *Bothriurus banariensis* (C. L. Koch, 1842) belonging to the family Bothriuridae. Here he describes on the above species as this Brazilian scorpion has never been treated by the Japanese zoologists.